



波紋

認定NPO法人としての更なる充実を

- 設立時の思いを基本に据えて
- 成熟した組織の充実を図る
- 研究の成果を足場に

本年度もどうぞよろしくお願ひいたします

認定NPO法人 教育活動総合サポートセンター

理事長 藤田 力

サポートセンター設立から14年目、平成29年度がスタートしました。昨年12月、サポートセンター

設立にご尽力された初代理事長の井口衛先生がご逝去されました。先生は設立10周年記念座談会で「空気と光と、そして友だちの愛、これだけ残っていれば、氣を落とすことはない」と語っておられました。設立時の山積した課題を、いかにしてメンバーと共に乗り越えてきたか、ゲーテの諺を通してその心中を話されました。

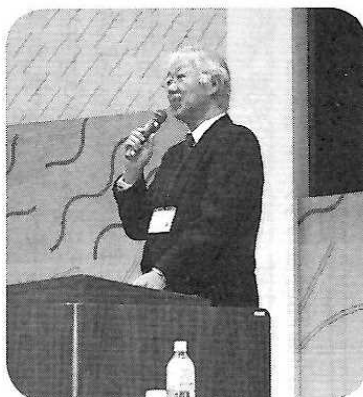
今私たちは、宮ノ下事務所があるのが当たり前、委託事業があるのが当たり前、寄付金があるのが当たり前と思いがちですが、先人の並々ならぬ努力の上にサポートセンターがあることを、改めて強く感じております。

2月25日(土)に研究報告会を開催しました。この研究報告会も平成17年に文部科学省の委託事業としてスタートしたのですが、設立時の理念「子たちに力を」を根底に、「いじめ・不登校」問題に取り組んできました。今回は「合理的配慮」を視点に、日々の実践事例研究の成果を報告しましたが、研究はサポートセンター30の事業に関わるすべての会員の総

認定特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンターだより
「波紋」 第14号
発行人 藤田 力
題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
TEL : 044-877-0553 FAX : 044-877-0980
E-mail : support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ : http://www.kks-support.sakura.ne.jp/
印刷 西桜印刷株式会社
TEL : 03-3568-2543

意であり、それぞれの事業の土台となるものと考えています。しいて言えばサポートセンターの顔であると思います。
新年度のスタートにあたり、設立時の理念を確認し、認定NPO法人としての更なる充実を図りたいと思ひます。その一つが成熟した組織の充実と考えます。事務局会議を中心に、全会員がやりがいのあるサポートセンターをめざしたいと思ひます。



29年度事業計画

- ①教育・福祉に係る相談等支援に関する事業
 - ア 教育・福祉相談事業 (自主事業)
 - イ 支援を必要とする子の保護者の会事業 (自主事業)
 - ウ 川崎市教育会館運営管理・教育相談業務
 - エ 神奈川県青少年センター「フリースペース等事業費補助金」事業
 - ア 対応指導に関する事業 (子どもサポート南野川)
- ②適応指導に関する事業
 - イ 地域における子ども支援と拠点づくり事業 (子どもサポート旭町)
 - ア 学習支援に関する事業 (自主事業)
 - イ 幸区地域課題対応事業 (日本語支援 東小倉川崎市学習支援・居場所づくり事業川崎区 (学習支援 川崎教室) 川崎市学習支援・居場所づくり事業幸区
 - エ 川崎市学習支援・居場所づくり事業幸区 (学習支援幸・日吉分教室) 川崎市学習支援・居場所づくり事業宮前区 (学習支援宮前・有馬分教室) 夏休み特別講座 (たのしいキッズセミナー) 科学教育の普及・啓発助成事業 (サイエンスキッズ) 地域の寺子屋事業 (寺子屋 西生田) 地域の寺子屋事業 (寺子屋 高津) 地域の寺子屋事業 (寺子屋 上作延) 地域の寺子屋事業 (寺子屋 鷺沼) 地域の寺子屋事業 (寺子屋 富士見台) 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
 - ④特別支援教育に関する事業 中原区子ども発達支援事業 (中原区保護者ミーティング) 体験活動等に関する事業 (自主事業)
 - ⑤文化・スポーツ活動推進に関する事業 大山街道ふるさと館共同運営事業
 - ⑥研究研修等に関する事業 (自主事業)
 - ⑦青少年の健全育成を図るための環境整備に関する事業
 - ⑧講演会等の企画運営に関する事業
 - ⑨「輝け☆明日の先生の会」事業 (含む不登校児童生徒に関するパネルディスカッション)
 - ア 不登校問題等講演会事業 (自主事業)
 - イ 「輝け☆明日の先生の会」事業 (含む不登校児童生徒に関するパネルディスカッション)



大山街道ふるさと館

平成26年度からふるさと館の指定管理を受け4年目を迎えます。講演・講座、各種の展示事業を拡充、地域活性化事業の推進など、さらに進めていきます。

今年度は、昨年度から取り組んでいる「街のマイスター講座」などいくつかの新規事業の充実にとくに力を注いでいきます。

小中学生に向けても、子ども探検クラブ、出前授業・職場体験など地域学習の支援も強化していきます。

(松田)

教育会館・教育相談

教育会館は懸案だった空調設備の工事が終了し、心地よい環境の中で利用できるようになりました。その結果、会議室等の利用者数、利用団体数ともに増加しています。

また、今年度は快適空間を目指して皆様の力作を展示するコーナーを2階ロビーで始めました。昨年の陶芸作品同様好評を得ています。多くの方の作品が展示できますよう、ご協力をお願いします。さらに教育相談件数も、年間百件を超え、年々充実しています。

(坪田)

初任者研修等指導員配置事業

川崎市の公立小学校、中学校、及び特別支援学校に採用された新任教員を対象に、退職校長等の初任者研修指導員を派遣し、研修を行う事業です。

具体的には、配置校に直接指導員が伺い、各教科の指導、授業の進め方、学級経営、児童・生徒指導等について指導・助言を行っています。

また、日々生じている様々な初任者の課題解決に向けての幅広い助言を通し、初任者を元気づけながら進めているところです。

(入山)

教育サポーター配置事業

川崎市教育委員会の委託事業として、市内小・中・高等学校の指導補助者として大学生を中心に教員経験者、地域の協力者等を配置しています。現在、小学校各校に3〜6人、中学校に1〜3人、市内小・中学校165校全校に配置し600余人の方がサポーターとして活動しています。それぞれの学校の状況に応じた支援活動に努めています。各校からはサポーターへの感謝とこれからの活動に大きな期待をいただいています。

(相川)

「輝け☆明日の先生の会」

今年で11年目を迎えます。臨任、非常勤、大学4年生、社会人を対象に年間7回の講座、ゼミ、パネルディスカッション等で研修を深めています。現職やOBの講師の皆様のご指導により、昨年は124人の受講者のうち50人が採用試験に合格しました。今年もタブレット端末を活用したグループ協議を取り入れ、さらに「教師の話し方」の実習も計画し、活気ある講座にしたいと思えます。

(石川)

平成28年度自主研究



昨年4月、障害者差別解消法の施行により、社会全般に合理的配慮が求められるようになり、これを

の施行により、社会全般に合理的配慮が求められるようになり、これを... 当日は教育会館の大会議室が、人で埋め尽くされました。「合理的配慮」への関心の高さを示すものと思います。 私たちの活動や考え方に共感する声をたくさん寄せていただきました。まだ模索中とはいえ、研究の方向性に自信を抱くことができました。

(齋藤)

「合理的配慮」に焦点をあてて、サブテーマを設定しました。

昨年度まで続いていた文部科学省の委託事業に、NPO対象の公募枠がなくなつたことから、28年度は自主研究として取り組みました。これまでの研究を受け継ぎ、「不登校・いじめへの対応」をテーマとし、「合理的配慮」に焦点をあてて、サブテーマを設定しました。



今年度の研究は「自主研究」として、昨年4月に施行された障害者差別解消法により今日的課題となつた「合理的配慮」をキーワードに取り組みました。また、研究報告会でパネルディスカッションを実施し、各立場の方からの報告によって、研究内容がより実態に近づくようになりました。

最初に、研究推進部長から1年間取り組んだ研究成果の報告を、また、福祉・相談適応指導部長から「合理的配慮」に注視したサポートセンターでの実践を事例としてまとめられたものを報告した後、パネルディスカッションを行いました。保護者、小・中・高等学校、サポートセンターの5人のパネリストから、日頃「合理的配慮」を念頭に実践的に取り組んでいることが報告されました。フロアでの小グループによるディスカッションや、全体での質疑応答、意見交換に続き、関係機関からも発言があり、「合理的配慮」の

不登校・いじめへの対応

一人ひとりに応じた「合理的配慮」への一考察

研究報告会から

「子どもが学校へ行けなくなつた。どうすればよいのか分からない」「学校の勉強についてのいけない。将来が不安」など、子ども自身が抱えている様々な不安や困り感、保護者の悩みなどについて、じっくりお話を聞き、一緒に考え、問題解決に向けて支援しています。

教育相談活動についてののご案内

(土日祝日 年末年始を除く)

所在地
川崎市高津区下作延5-11-8
電話 044-877-0553 (常木)

相談担当と学習担当が連携をとりながら、一人ひとりに合わせた学習支援を行い、学びの意欲が高まり着実に力をつけていきます。

- 相談受付
- 教育活動総合サポートセンター
- 電話受付 月〜金 9時〜17時

「子どもが学校へ行けなくなつた。どうすればよいのか分からない」「学校の勉強についてのいけない。将来が不安」など、子ども自身が抱えている様々な不安や困り感、保護者の悩みなどについて、じっくりお話を聞き、一緒に考え、問題解決に向けて支援しています。

相談内容を分類してみると、「学校には行けないけど、勉強はしたい」「高校進学についてもっと知りたい」といった学習に関するものが多数です。当サポートセンターでは、

考え方、各機関の連携、「チーム・サポートセンター」などについての意見が出されました。

最後に岡田守弘横浜国立大学名誉教授より、研究報告・パネルディスカッションの内容について、サポーターや保護者の役割について、「合理的配慮」を一人一人の身近な言葉で理解してほしいなどの貴重な指導・講評をいただきました。

当日は百六十人を超える参加者があり熱気あふれる研究報告会になりました。



(菊地)

こどもサポート宮ノ下

28年度も90人を超える子どもたちが、居場所を求め学習の機会を求めて、こどもサポート宮ノ下に集いました。そして、30数人の小・中・高校生が新たな道に向かって巣立って行きました。希望を胸に前を向いて歩み出した彼らの未来に、幸多かれと祈らずにはいられません。

私たちスタッフの合言葉は「子たちに力を」です。彼らの笑顔に、これからの活動を続けていきます。

(青木)



勉強をわかりやすく教えてくれたので、勉強が楽になりました。休み時間は、オセロなどをやって楽しかったです。僕の将

学ぶ楽しさ わかる喜び 元気いっぱいの子どもたち

先生たち、ありがとう

サポートセンターの先生たちが優しくしてくださったので、僕は頑張ることができました。難しい勉強をわかりやすく教えてくれたので、勉強が楽になりました。

来週の夢は、お父さんと同じ仕事に働くことです。鉄道が好きなので、運転手や車掌にもなりたいたいと思っています。

中学生になっても、サポートセンターで勉強したいと思っています。

経験をかかして

ぼくは週2回、午前中にサポートセンターに勉強をしに来ました。午後はゆめパークにあるフリースクールに行きます。サポートセンターでは月曜日には算数を、金曜日には社会の勉強をしました。ここでは先生方とマンツーマンで勉強もがんばりました。

図書室へダッシュ!

あなたにはどんな趣味がありますか。私は読書です。

1・2年生の時は、休み時間になると、「廊下は走らない」を無視して、図書室の「かいつつゾロリ」に向かってダッシュ。

3・4年生の時は、「黒魔女さんが通る」「若おかみは小学生」

次男は「チョコチョコ系」「これじゃ検査できないよ」と医師に言われました。サポートセンターでも机の上をピョンピョン跳び回るようだったとか。私の心配をよそに喜々と

わが子二人をあずけて

わが子二人をあずけて

と診断、ショックを受けました。小学生が大漢和辞典をほしがり、「ママはお金がないから五體字類で我慢する」と言うのです。長男は特別支援学校へ進学しました。



などの小説を読みまくりました。こわい話を読むようになったのもこのころでした。

本を読んでいていいことは、主に作文が書けるようになることです。伝記を読んでいると、歴史の授業が楽しくなります。

私は本からたくさん知識と楽しみを得ました。

(小6 M・H)

自分の夢に向かって

僕は中1の夏休みから学校に行けなくなりました。そんな中で、僕はNPOに通うことに決めました。NPOの学習では、先生方の教え方がとても面白かったです。わからないことがあってもあせらないことが役に立って、高校の入学試験に合格することができました。

(中3 K・H)

感謝

中学1年生の時にいじめにあい学校に行けない時期がありました。それ以来、人間関係に不安を感じるようになり、人のことを心から信用できなくなっていました。そんな時にサポートセンターという所があると聞き、2年生の夏から1年半、お世話になりました。先生方はとても優しく接してくださり、私の不安もなくなり安心して楽しく通うことができました。今、悩みを抱えている人たちに伝えたいことが1つあるとすれば、サポートセンターという場所があることを知っておいてほしいです。私が志望校に合格できたのは先生方のおかげです。ありがとうございます。

(中3 I・N)



のびのびファーム

ゆうゆう広場あさお敷地内にある農園ののびのびファームを活用した農業体験事業です。地元ボランティアの方々の指導のもと、近隣の小学校2校と中学校支援級の生徒たちがジャガイモ・サツマイモ・大根などの植え付け・種まきと収穫などの食育教育の一環として、1年を通して実施しています。日常の作物管理は前述の農業ボランティアの方々が行ってくださいます。野菜の生育は天候に左右されやすく、昨年度は大根の大豊作に、収穫に来た子どもたちの笑顔がはじけました。

(山田)

こどもサポート旭町

「こどもサポート旭町」は川崎区の不登校や引きこもりの子どもたちが安心して過ごせる居場所として、川崎区思春期問題対策事業の委託を受け設置されました。開設7年目になる28年度は43人が登録し、延べにして千人以上の小・中・高校生が来所利用しました。

旭町こども文化センターの3階和室は、月曜日から木曜日までの10時から4時まで子どもたちの声でいつも賑やかです。学習や卓球、楽しく談笑等、様々な過ごし方のできる居場所になっています。

(中野)

こどもサポート南野川

「こどもサポート南野川」は、不登校・引きこもりの子どもたちの居場所として開設され9年目を迎えました。今の自分から1歩踏み出そうと子どもたちが通所してきます。登録は、小学生から18歳までです。学習、畑の作業、収穫した野菜を使つての調理、ものづくり、卓球等々、自ら活動を選びます。自然豊かな南野川の地が子どもたちの背中を後押ししてくれています。進級や進学をきっかけにして登校できるよくなつた子もいます。退所しても経過観察しながら見守っています。

(大和田)

学習支援・居場所づくり事業

平成24年4月に生活保護受給者の自立支援施策を企画・立案・推進する部署として川崎市生活保護・自立支援室が創設され、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」が始まりました。生活保護世帯の子どもたちが高等学校に進学し、健全な学校生活を送り、卒業後も大学進学や就労すること、経済的に安定した生活を送ることができるよう、「貧困の連鎖」の防止を図ることを目的として計画された事業です。それぞれの教室に通う子どもたちが、目標を持って学習に取り組み、希望する高等学校に進学できるような学習支援を行っています。対象は川崎市在住の生活

保護世帯等の中学生で、今年度は川崎区に川崎教室、幸区に幸教室と日吉分教室、宮前区の宮前教室と有馬分教室を開設しています。それぞれコーディネーター、学習支援専門員(教員OB)、学習サポート(大学生等)が子どもたちの指導に当たっています。当初は中学3年生のみが参加対象でしたが、昨年度からは中学1年・2年生も参加できるようになりました。

平成28度に登録した3教室の中学3年生38人の進路状況は次の通りでした。

- 公立高校 全日制24人、定時制他7人
- 私立高校 全日制6人、通信制1人



(鈴木眞)

日本語支援 東小倉

日本語支援東小倉に最初に来たのは、当時小学5年生の中国籍の女児で、この春公立高校合格の嬉しい知らせとともに顔を見せてくれました。

現在、帰国子女・中国・フィリピン・ニュージーランドにつながる子どもたちが日本語や教科学習に取り組んでいます。子どもたちは約2年間で生活用語を習得でき、高が、学習用語は別で、高校受験が大きな壁にもなります。子どもたちが自分のアイデンティティを見失わず、目標や夢に向かって頑張れるような支援を心がけています。

(堤)

地域の寺子屋事業

平成26年「子どもたちが夢や希望を持って前向きに生きて欲しい」という市長の熱い思いを受け、寺子屋事業がスタートしました。教育活動総合サポートセンターでも、子どもたちのために「寺子屋」を皮切りに、27年度の九月には寺子屋「高津」、28年度には、寺子屋「上作延」を開設しました。

サポートセンターが担当している寺子屋では、教員OBと地域の人たちが知識や経験を生かし、個々の子どもの実態に合わせた学習支援を行っています。

週1回の寺子屋では、放課後になると、学習参加カードを手にした子どもたちが早速学習に取り組んでいます。

ます。教室では、「宿題・寺子屋プリント等」を基本として、子どもたちが自ら学習に取り組む姿勢を大事にしながら学習の深まりを図っています。時間の終盤には、子どもたちが様々なことに興味を持ち、自ら調べ解決しようとする力を培って欲しいという願いから、お楽しみ学習を設定しています。子どもたちは、自然や生き物・宇宙などの不思議等に目を輝かせ、ことわざカルタや数や漢字の仕組みに大きな関心をしめています。

体験教室では、参加者を募集し、「スポーツ」「科学」「芸術」等その道のスペシャリストを講師に招き、わくわくする活動を展開しています。



(東)

キッズセミナー

キッズセミナーは、夏休み基礎・発展学習、体験学習、実験などを取り入れた学習支援をしています。8講座が開催され、延べ951人の参加がありました。

ことわざパズル・消えた二ヶ領用水・算数マジック・リニアモーターカー作り・粘土でアート・英語で遊ぼう・パソコンでカレンダー作り・ブレゼン作り・いろいろな楽器を使つての音楽会等。

子どもたちは夢中になり、参加した保護者の方々の喜びが私どもの指導活力となりました。

(石田)

サイエンスキッズ

サイエンスキッズの事業はものづくりや自然探究の経験を継続し、学校教育を後方から支援することを目的として12年目になります。

昨年からは、各学校に出かけて行う出前科学教室を始めました。毎年好評で夏のキッズセミナーや冬のサイエンスキッズクラブでは延べ566人の参加がありました。

今年度も教材や活動内容をさらに工夫し、子どもたちや保護者の皆様に科学の楽しさや笑顔を届ける活動となるよう努めてまいります。

(鈴木博)

編集後記

昨年度は認定NPO法人1年目で様々な形で、社会的貢献の度合が目ざまされる年となりました。元ギリシャ大使をお呼びしての文化講演会はサポートセンターが始まって以来のグローバルな事業でした。今までの実績が評価され今年度は昨年以上に多くの委託事業契約を結ぶことができました。学習支援では幸教室に日吉分教室が、宮前教室に有馬分教室ができました。また寺子屋事業も鷺沼小・富士見台小に拡大されるなど、私たちの責任はますます重くなっています。「子たちに力を」の合言葉を改めて噛みしめながら、サポートセンターは前進します。

(本告)